

平成30年度当初予算
部局別要求方針

防災危機管理局

部局別予算要求方針

1 30年度予算要求にあたっての基本的な考え方(予算編成方針を踏まえて)

自然災害や異常気象など、市民の生活を脅かす様々な事象が頻発化しており、原子力災害を含めた予測される災害の把握と防災・減災に向け、行政や事業者、市民、防災関係機関等多くの主体が一体となった危機管理体制の構築と防災・減災に直結する諸事業を実施する必要がある。

また、平成29年度は、近年まれにみる台風の襲来となり、各地での災害事象の発生や避難所開設運営、避難情報発令など、個別具体的な対策と対応マニュアルの再整備が必要となった。

このことから、市民にいち早く、正確な情報を安定的に提供できる方策の確立、地域の防災力の向上としての自主防災組織や一般市民に対する各種支援、発災時の緊急初動対応や被災後の早期復旧につながる資機材の整備充実、地域防災の根幹を担う消防組織（常備消防、非常備消防）の防災拠点施設の整備など、不断永続として事業実施していく。

2 予算要求の重点事項（新年度の取組目標、新規施策等）

（優先すべき事業）

- ・ 防災情報伝達システム（同報系防災行政無線・防災アプリ）整備事業
- ・ 指定避難所（台風災害時開設定）への情報提供用テレビ設置
- ・ 消防団拠点施設（消防団屯所・ホース乾燥塔・消防ポンプ車）整備事業
- ・ 水防対策（中小河川、堤防漏水浸透水）用資機材整備
- ・ 湖北地域消防本部庁舎整備事業（負担金）

（事業の必要性）

- ・ 市内全域で一律に、安定的に行える防災情報伝達システム（屋外拡声子局、防災アプリ）を構築し、災害発生時の市民の安全確保を図る
- ・ 避難所所在の避難者、関係者あての情報提供用としてのテレビ環境整備
- ・ 第16分団（虎姫）の拠点施設として、団員詰所、車庫等を有した屯所の整備、ホース乾燥塔の適正な更新、修繕、消防ポンプ車両（2台）更新
- ・ 中小河川の増水による周辺住宅の冠水対策として、水防用資材、機材の備蓄を充実、地先自治会との協働による排水対策の実施
- ・ 老朽化している消防本部庁舎について、消防業務の根幹を担う施設としての設備と機能を備えた本部庁舎整備事業に対して組合構成市として負担

3 事務事業の再構築（事務事業の検証・見直し、選択と集中の結果）

- ・ 消防団事務の湖北地域消防組合への事務委託